

平成26年度「学まちコラボ事業(大学地域連携創造・支援事業)」

# 嵐山と桂川を“いかだ”でつなぐ プロジェクト2014

京都大学環境デザイン学研究室  
「嵐山景観きりこみ隊」  
with  
嵐山保勝会

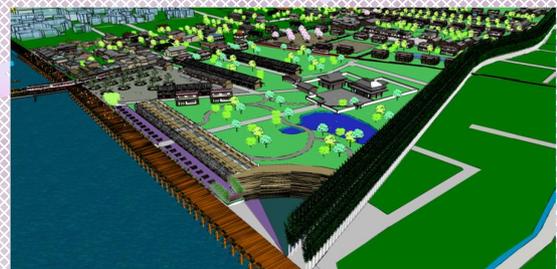
後藤田涼希 河村清美 川上哲平 熊澤真奈 (4年生)  
深町加津枝 (京都大学大学院地球環境学堂准教授)

## はじめに ～紹介～

### ● 嵐山景観きりこみ隊

- ・ 嵐山景観の美しさやその将来に関心を持つメンバーで結成
- ・ 一昨年度の研究室  
…京都市の事業の一環として、30年後、100年後の嵐山の姿を提案

100年後の嵐山 イメージ図  
京の“離れ”～山水に遊ぶまち嵐山～  
(当研究室作成)



### ● 嵐山保勝会

- ・ 地元のお寺、料亭、土産物屋、嵐山通船の代表の方など  
観光業を生業とする地域の方が幅広く参加

# 事業背景・目的

## 事業背景①

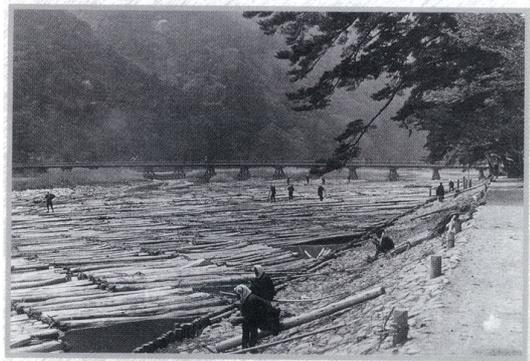
- 70年ほど前

上流で伐採した材木

↓桂川の流れを利用し“いかだ”で運搬  
下流の辺りは丸太をためる貯木場



京都名所之内「あらし山満花」 歌川広重（江戸時）



●左岸下流の貯木場（大正期）

- 現在

上記のような営みは失われる

## 事業背景②

### ● 昨年度「いかだ流し体験会」

- ・ 地元の高校生を含めた60人が参加
- ・ 嵐山の現状、地域住民のつながり、地元嵐山の魅力を再認識する機会を提供できた

### ・ 地域の歴史を知るのに重要な体験

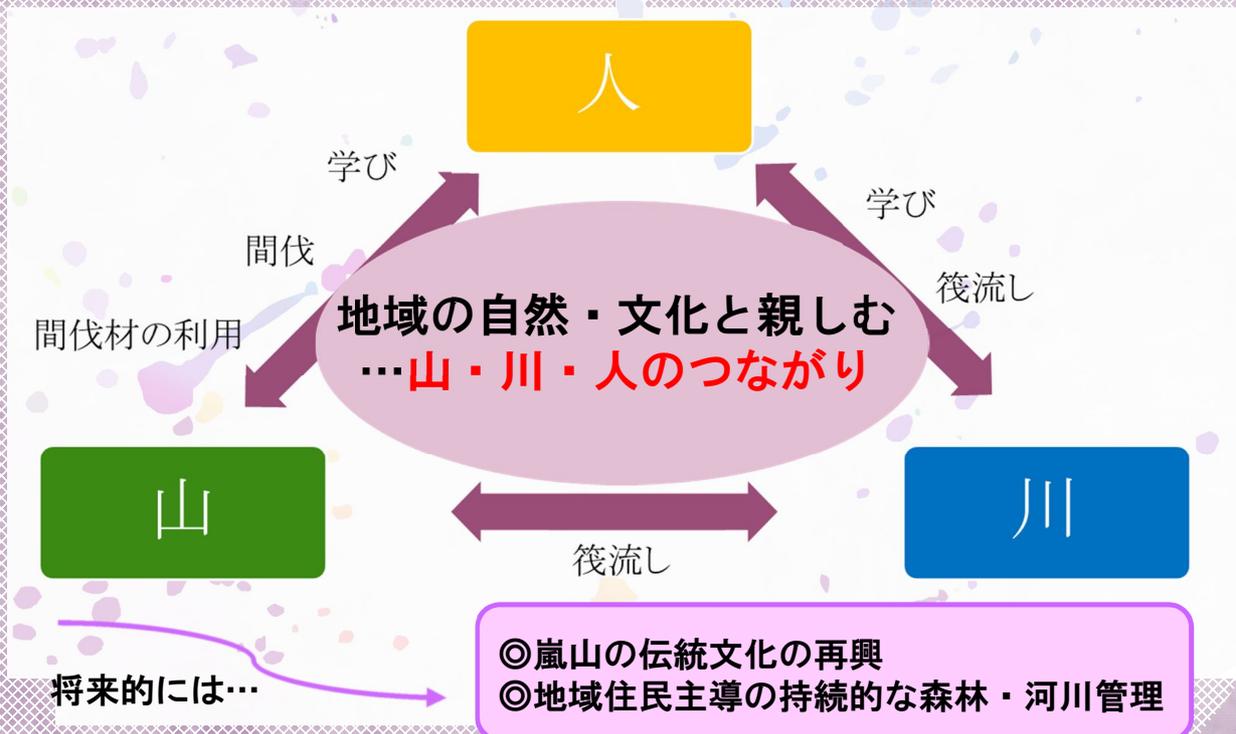


昨年のイベントをさらに拡大

+

新たな事業の開催

## 山・川・人のつながりの再生



# 取組内容報告

---

## 3つの取組み

いかだ流し



学びの場



間伐材利用



## ~取り組み内容①~いかにだ流し

### □ 嵐山いかにだ流し(7/19)

- ・嵐山の桂川左岸にて、伝統的ないかにだの組立てと試乗会。
  - ・地元の方々、当研究室のメンバー、京筏組の筏士の方々、嵯峨野高校生、地元の小学生、あしなが基金留学生など、多方面から総勢80名ほどが参加。
  - ・天龍寺総長柁さん、亀岡文化資料館黒川さんらに講話をいただき、嵐山景観について再考する機会を提供。
- 昨年度よりさらに幅広い年齢層の方々に参加いただき、いかにだを通した上流と下流のつながりを学ぶ。



## ~取り組み内容②~学びの場の提供

### □ 流域治水勉強会(9/5)

- ・嵐山天龍寺にて、桂川流域の治水勉強会を行った。
- ・京都大学環境デザイン学研究室・景観設計研究室、東京大学地域デザイン研究室、嵐山関係者など、幅広い分野に属する方々の参加。
- ・嵐山地域の見学を通して、桂川の治水の歴史について勉強。各研究室の発表者から「嵐山の景観に見る地域らしさ」などの話題提供を受けてのディスカッション。



## ~取り組み内容③~ 間伐材の新用途の検討

### □ 加藤林産訪問（3/25）

・京都における林業先進地域である北山において、実際に間伐材を利用した製品を作成している加藤林産を3月25日に訪問し、その利用方法を学ぶとともに、嵐山地域でニーズのあるベンチ作成で使用する間伐材を購入。

・間伐材の新形態での利用として、ペン立て、コースターなどの加工品を購入し、研究室への展示などで広報活動。

→実際の嵐山地域でのニーズと、間伐材で実際に作成できるものをいかに経済性をうまく結び付けられるか検討。



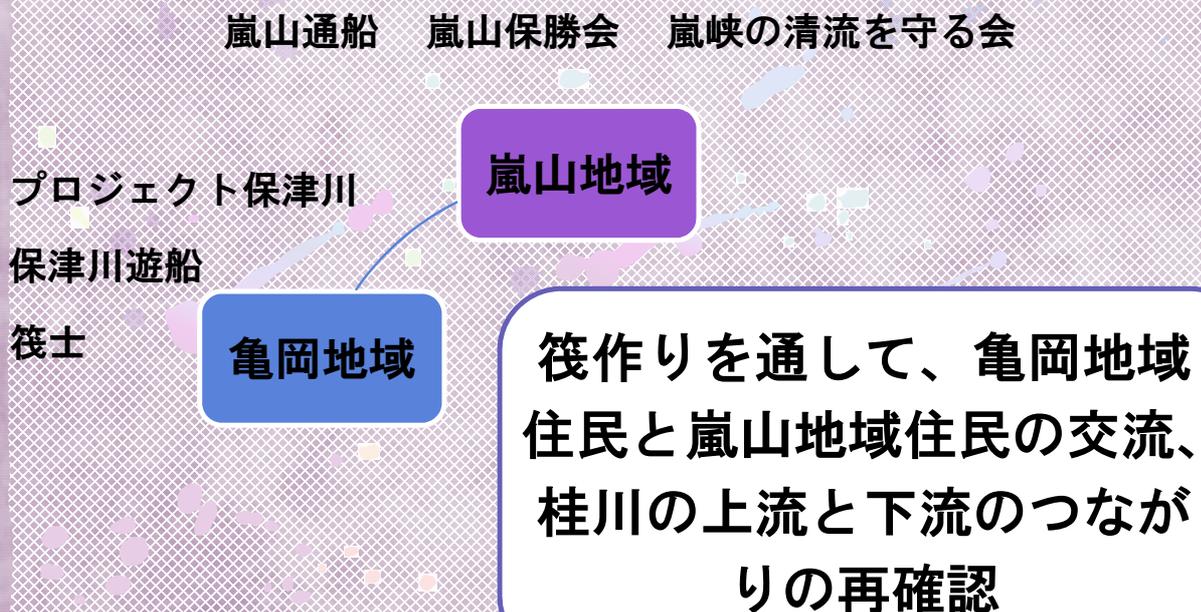
## 事業成果報告

---

## ~事業成果~ 多様な人と人とのつながり



## ~事業成果~ 嵐山と亀岡の住民に対して



## ～事業成果～ 学生に対して

嵐山を支える若い世代、地元にとどまらず海外の学生に地元の自然や伝統に触れてもらうことでその魅力を知ってもらい、それらの維持に向けた意識づけ

京都大環境デザイン学研究室

京都大学景観設計研究室

東京大学地域デザイン研究室

大学生

留学生

嵯峨野高校生

中高生  
留学生

## 大学と地域の連携のポイント

### 地元の取り組みとの共同事業

- ・もともと嵐山地域・亀岡地域の住民によって行われていたいかだ流しイベントなどを共同ですすめる→道具や技術、人員などの面でお互いに協力することができた。

### 地元住民の視点と大学生の視点の融合

- ・特に嵐山治水勉強会において、地元の住民の景観に対する視点と、景観を学問として扱う大学側の景観に対する視点を上手く交えながら議論することができた。

### 地域の持つ価値の発信

- ・例えば、学生が介入することにより、間伐材を利用した製品の良さなどを世間に発信し、新たな需要を創出するための下地作りができた。

## 課題と今後の展望

### ● 間伐材の利用

亀岡文化資料館の丸太を借りたが、いかだとして利用したのみ。同じ間伐材として、北山杉の間伐材を利用した製品を購入したり、ベンチ用の原木を購入したりしたが、いかだでの使用と、その後の使用を一貫した形で計画する必要がある。

### ● 事業完了時期の遅れ

全事業の完了が3/25となり、最後の取り組みである間伐材の新たな利用形態の模索として、日程的に、嵐山などの地域の住民の声を取り入れるのが難しかった。全体の見通しを持ったスケジュール管理が必要である。



ご清聴ありがとうございました。